



CAJLE Newsletter

Number. 58
June 2019

カナダ日本語教育振興会

Canadian Association for Japanese Language Education

目次

会長の言葉	1
CAJLE2019 年次大会のご案内	2
INVITATION TO CAJLE 2019 ANNUAL CONFERENCE	3
特集記事「カナダ日本語ビデオコンテスト」	5
CAJLE 活動報告	7
◆ 全カナダ日本語弁論大会	
◆ 日本語教師情報交換会	
◆ 地域研修会 オタワ・トロント	
学校紹介	12
◆ セントマーガレットスクール	
◆ サレー日本語学校	
国際交流基金コーナー	13
2018 年下半年活動報告	14
編集後記	15

Editors: Sawako Akai (Chief), Izumi Adachi, Tomoko Bailey Ujie

Copyright©CAJLE 2019

会長の言葉

CAJLE 会長 青木恵子

ビクトリア・デーを過ぎてやっと春が感じられるようになりました。私の住む地域では、サマータイムへの切り替えとともに明るい時間が増え、雪が解けたかと思うと一気に地面が緑に色づき、木々が芽を吹き、肌寒い中にも太陽がじりじりと照りつけます。薄いピンクの木蓮を見るたびに、日本の桜に想いを馳せます。

この春は、CAJLE が取り組んでいる日本語教育グローバルネットワーク・プロジェクトのワークショップ「セカイの日本語～みんなの声～」がオタワとトロントで開催されました。また、トロントでの「継続」、バンクーバーでの「継続 BC」も順調に回を重ね、地域の会員の皆様とともに学ぶ機会がたくさんあったことをうれしく思います。今後もぜひ企画のご応募をお待ちしています。さらに 6 月中には国際交流基金トロント日本文化センターとの共催「継承語オンラインネットワーク」も開始する予定です。

新しい取り組みとして、Twitter と Facebook での発信も始めました。ウェブサイトにアイコンが表示されています。クリックの上、ぜひフォローをお願いいたします。各種イベントやウェブサイト更新のお知らせもすぐにご確認できます。ぜひつながってください。

もう思いは夏です。今年の年次大会は太平洋に面したブリティッシュ・コロンビア州の州都、ビクトリアにて開催されます。2 日間の年次大会に加え、大会前日の「体験学習」情報交換会、翌日の観光ツアー等、イベントが目白押しです。実行委員が一丸となって鋭意準備中です。

ここで皆様にお願いがございます。参加登録に使用している決済サービスに不具合が生じ、修復に時間がかかっております。解決に向けて手を尽くしておりますが、これ以上お待ちいただくわけにはいかなりました。お手数をおかけしますが、ウェブサイトの大会登録ページをお読みの上、Google Formにてお申し込みいただき、お住いの地域・通貨ごとの指示に従って参加費をお支払いいただきますよう、お願い申し上げます。ビクトリアで多くの皆様にお会いできるのを心待ちにしております。

CAJLE 2019 年次大会のご案内

大会実行委員長 木村美香



今年も CAJLE 年次大会の季節が近づき、大会登録も 6 月 1 日（土）より始まります。本年度の年次大会は 8 月 6 日（火） - 7 日（水）に、BC 州の州都ビクトリアにあるビクトリア大学で開催いたします。「表現リテラシー：コミュニケーションから考える多文化社会の日本語教育」をテーマとし、参加者の皆様と多文化社会の中で必要とされるコミュニケーション能力が促進できる日本語教育について理解を深めます。

本年度は 基調講演と教師研修に演劇界のみならず演劇的な手法を通してコミュニケーション能力の育成にも取り組んでいらっしゃる平田オリザ先生を日本よりお招きします。さらに村上吉文先生（国際交流基金・アルバータ州教育省）、そして、ウェンディ・カー先生 (University of British Columbia) にもそれぞれのご専門から教師研修を行っていただきます。まず、初日の朝に平田先生に「演劇的手法を使ったコミュニケーション教育の進展」という題で基調講演を行っていただきます。コミュニケーション教育と言語教育の将来、またなぜ演劇がコミュニケーション教育に有効なのかお話いただくことでこの二日間の大会のテーマを皆様と共有したいと思っております。平田先生の教師研修では、「言語教育に演劇的ワークショップを導入する意義 -理論と実践」と題し、演劇のワークショップや演劇のテキストを使ったワークショップを参加者の皆様に実際に体験していただき、日本語教育への演劇的手法の導入の有効性について考えます。村上吉文先生は SNS などを使った言語学習を推奨していらっしゃるだけでなく、オンラインを通して様々なコースを配信していらっしゃいます。そこで、教師研修でも「ソーシャルメディアの自己表現」というテーマで先生が実際に行った Twitter を使った日本語学習の実例をご紹介いただき、皆様と一緒にその活用例、方法について考察します。ウェンディ・カー先生はご専門分野の教育学から「教室を超えた言語教育：コミュニケーションの機会を作り活用するために」と題し、実際にブリティッシュ・コロンビア大学で行われている教師養成のための体験学習コースを紹介していただきます。この学習方法の特徴は、学生達を普段自分たちが慣れ親しんでいる学校という場から離れさせることで、学びがどのように生じるのかということをも身を以って体験させることです。カー先生はこの学習方法で学生がどのようなことを学び取り、また自分とは違う文化を持つコミュニティに参加するためにどのような準備が必要だったかなど実際の例を使って説明していただきます。

本大会では大会以外にも楽しい催しを企画しております。大会前日の 5 日には体験学習をテーマとした情報・意見交換会を企画しておりますので、フィールドスクールなど体験学習を日本語教育に取り入れている方、また体験学習に興味があるけれど、どのように取り入れたらいいか思案中の方、ぜひご参加ください。また、大会翌日、8 日（木）には 楽しい大会オプショナルツアー（ビクトリア観光）がございます。ビクトリアにある世界的に有名なブッチャート・ガーデンの散策や英国式のアフタヌーンティーが付いたビクトリアが満喫できるツアーです。ブッチャート・ガーデンは ダウンタウンから少し離れた場所にありますので、ツアーに参加されると便利です。今回 近畿日本ツーリストさんのご好意によりオプショナルツアーだけでなく、航空券（カナダ国内線）、

ホテルなどお得なプランを準備しております。詳しくは [大会ウェブサイト](#) をご覧ください。大会情報などはウェブサイトだけでなく、[Twitter](#) も使い発信していきますので、そちらもご利用ください。それでは 2019 年 8 月、皆様とビクトリアでお会いできることを楽しみにしております。

<登録について>

大会登録開始：6月1日（土）カナダ西部時間

早割り締め切り日：6月14日（金）

オンライン登録締め切り日：7月26日（金）

登録方法：CAJLE ウェブサイトより[登録フォーム](#)へお進みください。

お支払い方法：登録フォームにある登録費支払い方法よりお選びください。

今回は会場の都合により参加者を 100 名とさせていただきますので、登録はお早めをお願いいたします。また、PayPal がお使いいただけませんので、ご注意ください。参加者の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、よろしくをお願いいたします。

INVITATION TO CAJLE 2019 ANNUAL CONFERENCE

MIKA KIMURA, ORGANIZING COMMITTEE FOR CAJLE2019



Our annual conference is coming close now, and registration will start on June 1 (Sat). This year, we will host our annual conference at the University of Victoria, located in Victoria, the capital city of the province of British Columbia, on August 6 (Tue) - 7 (Wed). The theme of the conference is “*Hyogen* literacy: Exploring Japanese Language Education in a Diversifying Society from the Perspective of Communication.” With this theme, we will explore how Japanese language education can enhance the ability of communication, considered necessary for diversifying societies.

This year, we have invited our keynote speaker, Mr. Oriza Hirata, from Japan. Mr. Hirata is well-recognized in the field of contemporary theater and also widely engaged in raising awareness of the communicative competencies through the theatrical method. He will also lead one of our teacher workshops. Further, we have invited Mr. Yoshifumi Murakami (Japanese-Language Education Advisor from Alberta Education sponsored by the Japan Foundation) and Dr. Wendy Carr (University of British Columbia) to run two other teacher workshops, based on their expertise. During the morning of the first day, Mr. Hirata will give a keynote address entitled “Communicative Education using a Dramatic Approach: The State of the Field.” By exploring the future of communicative education and language educations and the reasons why drama can be a useful tool for communicative learning, this address will set the tone of this two-day conference among participants. At Mr. Hirata’s teacher workshop, we will directly experience his theatrical method using a simple dramatic workshop with an actual text from a drama to discover the significance and potential benefits of using these methods for Japanese language learning. Mr. Murakami

advocates the usages of social media for language learning and offers various online courses using social media. The theme for his teacher workshop is "Self-Expression on Social Media." He will share an actual class he has taught using Twitter, and discuss how we can utilize such a course and what are the points we need to be aware of to do so. The theme of Dr. Carr 's teacher workshop is "Teaching and Learning beyond the Classroom: Maximizing Opportunities for Communication." From her expertise, she will introduce a field school which is offered in the program for prospective teachers at the University of British Columbia. The purpose of this field school is to situate students far from schools that are the most familiar learning centers for them and help them experience where and how the action of learning can actually occur.

Besides our annual conference, there are also fun events before and after the conference. On the day before, Aug. 5 (Mon), we are planning to have an external session on field schools. We want to share information on field schools and exchange ideas among participants. If you are interested in organizing or doing such a course but don't know where to start, please join us. On the day after the conference, Aug. 8 (Thurs), we have a fun optional tour taking you around Victoria. It includes the world-famous Butchart Garden and its English-style afternoon tea. You can enjoy Victoria fully with this tour. Since Butchart Garden is located on the outskirts of Victoria city, we highly suggest you take this tour for your convenience. Thanks to their kind support of our conference, Kintetsu International has organized the optional tour and are providing special airfare rates for our domestic participants, and a hotel plan. Please check our [CAJLE website](#) for the details. We started [CAJLE Twitter](#) this year and posting the related information. Please check our Twitter, too. We all are looking forward to your participation in our CAJLE annual conference 2019 in Victoria, BC.

<Registration Information>

Starting Date: June 1 (Sat), Canada Pacific Time

Deadline for the special discount rate: June 14 (Fri)

Deadline for the online registration: July 26 (Fri)

Registration: Go to the [registration form](#) from the website

Payment methods: Choose from the list on the registration form

We ask you to register early, as we have to limit the number of participants to 100 due to the capacity of the main venue. Please note that PayPal is unavailable at this time. We are very sorry for the inconvenience we may cause you for the registration.

CAJLE2019 前日情報交換会のご案内

ここ数年、体験学習を行なっている大学、高校なども多いのではないのでしょうか。しかし、単なる観光旅行になっていませんか？ どうしたら体験学習プログラムをもっと学生にとって有意義な体験にできるか、また、どのようなテーマで体験学習を行ったらいいかお悩みではありませんか。この情報交換会では、実際に兵庫県城崎で日本語・日本文化のフィールドスクールを行なっている野呂博子先生（ビクトリア大学）に進行役となっただき、体験学習を行っている方、またやりたいと思っている方と一緒にアイデアの交換、その意義、課題などについて考えます。

日時：8月5日（月）、2時～4時

場所：ビクトリア大学 Clearihue A127 教室 [大学構内地図](#)

お申し込み期間：7月26日（金）まで

RSVP：[こちら](#)から お申し込みください

特集記事 「カナダ日本語ビデオコンテスト」

「カナダ日本語ビデオコンテスト」は、カナダ在住の日本語学習者を対象に 2017 年に始まった企画です。実行委員会代表の楊先生から、このコンテストが始まった経緯や今後の展望などをお聞きました。— 編集部

カナダ日本語ビデオコンテストをめぐって

カルガリー大学・カナダ日本語ビデオコンテスト実行委員会代表 楊曉捷

日本語を学習する学生たちのために、普段の教室活動や学校行事などではあまり表現することのない才能を披露する場を設けようと、2017 年の春にこのビデオコンテストを企画、実施した。その後、2018 年秋に第二回を実施し、この春、すべての審査が無事終了した。二回目のコンテストには、大学や高校などの学生に加えて、週末の日本語学校に通う小学生まで参加し、かつ受賞まで勝ち取った。参加地域も、西はビクトリアから東はモントリオールまで、言葉通りにカナダ全土にわたるものとなった。

ビデオコンテストの詳細は[公式サイト](#)に記述されている。それに加えて、JFT 日本語教師オンラインセミナーにおいて「学習成果披露の場を築くために」と題して、主催、運営の方法、そこから得られた見識、そして技術的な対応をふくめ、発表をさせてもらう機会があった。その内容は録画で公開されている。要点を繰り返すならば、コンテストの企画、公開、募集、審査、そして受賞にいたるすべてのプロセスは、完全にオンラインで行われたこと、利用したのは、どれも既存の、だれでも簡単にアクセスできるデジタル技術であること、それにかかわる一連のプロセスは、いろいろな意味で複製可能で、実用的なテンプレートだったこと、などが挙げられよう。現に、第一回のビデオコンテストを受けて、筆者は「Old Japan Redux」というサイトを開設した。二つのサイトを比較すれば、アプローチの共通点がすぐ分かってもらえると思う。

ここに、せっかく紙面を与えていただいたので、上記の公式サイトや口頭発表で十分触れられなかったことについて、二、三記しておきたい。

まず、この行事が成り立つまでの経緯を紹介したい。広く日本語学習者を対象とし、急速に身近な表現手段になったビデオを使って成果を発表してもらおうという考えは、長い間漠然と抱いてきた。その後、国際交流基金日本語教育専門家の齊藤真美先生を困らせて雑談する機会があった。カルガリー大学の学科ラウンジでのいつもの数人のメンバーでの会話だったが、この発想を話題にしたら、急速に具体的な話になった。ビデオ作品は二分間まで、日本語を使うなら英語字幕を入れる、助成を申請する予算の金額、そして実行委員はそれぞれの教育機関から一名までなどなど、具体的な提案や方針が次々とその場で交わされ、議論された。齊藤先生の後任には村上吉文先生が着任してきたことも大きい。あらためて言うまでもないが、オンラインメディアの達人、日本語教育の世界でデジタルメディアの利用に一番積極的に取り組んで



いる村上先生が協力してくださっていることは、なんとも心強い。行事を実施するには、サイトの作成から応募作品の整理、受賞者との連絡など、具体的な作業をこなすためにそれなりに覚悟はしていたが、実際には想像したほど難しいことはなく、ほぼすべてスムーズに、ストレスなく達成できた。ちなみにシドニーにいる齊藤先生は、オーストラリアでの似たような行事を知らせてくださったりして、ずっと温かく見守ってくださっている。

全カナダでの日本語学習者を対象とすれば、どうしても範囲が広くて、学習者の顔がぼやけて見えてこない恐れがある。そのため、受賞者には顔写真や個人のメッセージを発信するように要求したりして、距離を縮めようと工夫した。実際には、ソーシャルメディアを用いたからこそ見えてくる学生像がそこにあり、主催者の立場からそれがはっきりと見えてくる場合もある。一例として作品閲覧の数が興味深い。第一回の候補、入賞作品の約三分の二、第二回の約三分の一は三桁の数に達し、一番閲覧数の多い作品は七百に近いアクセスを記録している。この数字は、作品に関心を持つのは、学習者周辺に留まるということを物語っていると言えよう。ただ、逆に言えば、作品の公開や伝播は、作者本人と密接に繋がり、そこに参加者自身の思いが込められ、そして長い目で見れば学習者にとっての貴重な成長記録になるに違いない。これはまさに主催者が願っているものだ。このような作者群に小学生まで加わっていることは、なによりも頼もしい。

改めて断るまでもなく、応募の数はまだまだ少ない。個人的な気持ちとしては、一桁違うのではないかとさえ思う。しかし、いまの倍にでもなったら、対応などにおいて苦勞の度合いがまったく違うだろう。それはともかくとして、実感として若者たちの才能が集結されるにはかなりの距離がある。目標にいかにか近づけるか、どのような仕掛けが必要で、何が有効なのか、まさに組織者としての知恵や能力が問われている。関心ある方々にはぜひ知恵を貸してほしい。

このビデオコンテストは、これからどのように継続していくのだろうか。行事の持続性というのも、大きな課題である。とりわけ国際交流基金の助成があったこれまでの二年間は、理想的な展開であった。その反面、特定の教育機関だけではなく、すべての機関に対して参加を促し、援助するようなサポートがもしなければ、全カナダと名乗るような行事ははたして存続できるのだろうか。真剣に考えなければならない。

最後になるが、行事の実施にあたり、知っているかぎりのすべての大学教育機関の代表者に声を掛け、快諾してくれた数人の先生たちにより実行委員会を立ち上げた。委員会への参加がなくても、この運営に賛同してくれた機関には、「参加協力大学・団体」として名前を掲載させていただいた。この行事を通して、同じ分野で仕事をし、信頼できる同僚と交流し、個人的にも勉強になることが多かったことを付け加えておきたい。



CAJLE TWITTER はじめました！

@CAJLE_ACELJ

https://twitter.com/CAJLE_ACELJ?lang=en

年次大会とGNプロジェクトの情報について発信していきます。

—CAJLE 活動報告—

CAJLE より全カナダ日本語弁論大会、「継続」シリーズ、地域研修会、の五つの活動をご報告します。 — 編集部

第 30 回全カナダ日本語弁論大会開催後記

CAJLE 全国弁論大会部門担当 金梨花 (ブリティッシュコロンビア大学)

2019年3月24日、在カナダ日本国大使館において CAJLE と全国大会組織委員会の共催により第30回カナダ日本語弁論大会が開催されました。この大会でカナダの7地区大会の各カテゴリー第一位通過者合計27名が一堂に会し、長い時間をかけて準備したスピーチを発表しました。それぞれの学生が家族との関係、日本語の学習方法、日本への興味、そして日本文化の側面を自分の経験に結びつけて語るなど、日本語学習者の日本への興味の深さや表現力の幅の広がりがよく見られた大会になりました。 [日本国大使館](#)と [CAJLE](#) のウェブページ上で大会の様子をご覧いただけます。

大会後には参加者から実行委員会に感想メールが寄せられ、参加者にとって日本語を介してカナダ全国の学習者とながり、経験を共有しあい、更に高い目標に向かうよい機会になったことがわかりました。このことは、実行委員会として大変うれしく、また日本語教育に携わるものとして大変励みになりました。

今年度もカナダ各地の大学に在籍する全国大会組織委員、CAJLE、地区大会実行委員会、そして開催校が連携・協力し合い、この全国大会が無事に開催できたことを大変嬉しく思っております。地区大会を含め弁論大会に出場した参加者全ての努力と成果を祝福し、ご指導下さった先生方、地区大会実行委員会の皆様、審査員の皆様ならびに開催校実行委員長相津頼子先生と現地実行委員の皆様、そしてご支援くださった在カナダ日本国大使館とスポンサーの皆様にお礼申し上げます。



日本語教師情報交換会 第28・29回 日本語学習を継続させる

小室リー郁子(トロント大学)・松本朋子(トロント日本語学校・JCCC)

第28回「継続」では、国際交流基金トロント日本文化センターで行われている日本語講座の見学を、2日間に分けて行いました。講師は善積祐希子氏で、同基金が開発した『まるごと』を使用した初級と中級クラスの授業を見学しました。いずれの授業も学習者の発話や表情が間近で観察できる環境での見学となり、教師と学習者とのやりとりから具体的に授業内で行っている教室活動などを学べる機会となりました。特に、中級クラスは申し込み開始後すぐに見学希望者が定員に達し、先生方の関心の高さがうかがえました。

第29回「継続」では、第28回「継続」で見学した授業を録画した「ビデオによる授業見学会」を行いました。授業の様子は、異なる活動に移るごとに善積祐希子氏から説明が入り、単なる授業見学ではない積極的な学びの場となりました。ビデオを見たあとグループに分かれてディスカッションを行い、最後に全体で共有しました。参加者からは、いろいろなアイデアを知ることが出来てよかった、また、講師自身による授業内容の解説は大変勉強になった等の感想が寄せられました。

<第29回・継続シリーズ> (写真の提供は国際交流基金トロント日本文化センター)

講師による授業解説



グループに分かれてのディスカッション



各グループの発表



日本語教師情報交換会 IN VANCOUVER 第4回 漢字の指導・漢字の将来

阿部ますみ(ブリテッシュコロンビア大学)

継続 BC 第四回目の情報交換会が 2019 年 3 月 10 日にバンクーバー日本語学校で開かれ、日本語学校、高校、大学より約 30 名の方々にご参加いただきました。前半のトピックは「漢字の指導」。会場では、「これでいいのだろうか」「もっといい方法はないか」など悩みを持たれている方が多く、悩みながらも、最終的に漢字は本人の努力に委ねるしかない、という声も聞かれていました。今回講師をお願いした、ランガラカレッジの林長司先生は学習者の知的興味を引き出すご指導でよく知られており、冒頭で、「漢字は日本語教授の基礎。なおざりにしてはいけない！」と、まずは気持ち良く喝を入れていただきました。なるほど漢字は、「物語であり芸術。日本語と日本文化の理解は漢字の習得なしでは深められない」ほど大切なもので、漢字の導入は平仮名、カタカナを教える段階ですでに始まっている、という力説を伺い、日本語の 3 つの表記体系を区別して考えていたことを反省する好機となりました。実際、「とんこつ味噌ラーメン」のような表記の複合語があふれる日本語では、漢字を知ること、言葉や文をより早く、深く理解できるようになるという動機付けが初期の段階で大事であることは理にかなっています。具体的な指導法としては、3 つの表記の密接な関係、漢字が持つ意味、表記が織りなす日本のビジュアル文化、平仮名だけの文の分かりにくさなどを学べる、書いて、見て、発音する五感を使った授業例をご紹介いただきました。最後には、「教師は学習者が必ず習得が可能であると信じ、楽しんで教えなければ学習者の習熟度は下がる」と林先生に強く背中を押していただき、深く考えさせられる機会となりました。

後半は、漢字の指導と将来についての意見交換に移り、1) 漢字の指導時間の確保、2) 漢字圏・非漢字圏学生の混在するクラスでそれぞれに漢字に興味を持たせるにはどうしたらいいか、3) デジタル化に伴う漢字教育の今後は？などについて、グループに分かれ、活発な意見交換がなされました。参加者アンケートに寄せられたご意見の中に「漢字指導をさっそく見直したい」「生徒も教師も楽しみにする授業作りを私も頑張らなくては！ と刺激を受けた」という声が聞かれ、年二回のペースで行われるようになった継続 BC 情報交換会は順調な成果をあげています。



地域研修会報告:オタワ地区

東プリクリル陽子(カールトン大学)

2019年4月7日に、CAJLE から地域研修会の補助金を頂き、「セカイの日本語～みんなの声～」:日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソースを使ってみよう」というテーマで、林寿子先生(カールトン大学非常勤講師・CAJLE 理事)を講師にお迎えし、カールトン大学で教師研修会を開催した。また、講演の合間に CAJLE 会長である青木先生に CAJLE の活動についてオタワ地区教員に説明していただく機会を得た。

さて、研修は前半と後半に分かれて行われ、前半ではバイリンガリズム、ジム・カミンズの共通基底能力 (common underlying proficiency) やガルシアのトランスランゲージングについて理論的に解説していただいた後、参加者から日頃直面している教授法の問題点や打開策に関する質疑が出され、活発な意見交換が行われた。又、バイリンガル教育はもとよりフランス語のイマージョン教育が盛んな土地柄を反映してか、第三言語、第四言語などのマルチリンガル教育の不安要因やコード・スイッチングの観点からの質問等も出された。更に、日本語クラス内で最大限のインプットを目指し日々努力している参加者の中には、学習者の母語を積極的に活用して文法項目等の理解を促進するというトランスランゲージングの教授法に開眼の思いがしたと報告する教師も見られた。

後半は「セカイの日本語」や「やさしい日本語」についての概念を学習後、林先生が現在チームで取り組んでおられる「セカイの日本語～みんなの声～」プロジェクトをワークショップ形式で紹介して下さいました。このプロジェクトでは多様な日本語使用者のストーリーをリソースとして集めておられ、今回のワークショップはグループ毎に収録済みのビデオから関心のあるストーリーを抽出し、要旨や興味深い点を聴き取り、全体に報告するという形式で進められた。時間の関係上、そのリソースを具体的にいかに授業に取り入れていくかという点までは意見交換ができなかったが、非常に内容の濃いストーリーを初級レベルから上級レベルまで収集なさっておられ、深く感銘を覚えると同時に是非、授業で活用させて頂けたらと思った。

以上、研修後のアンケート調査結果からも、実り多い研修会であったと言える。



地域研修会報告:「セカイの日本語～みんなの声～日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソースを使ってみよう」

川口真代(トロント大学)

5月12日にCAJLEにおけるGN(日本語教育グローバルネットワーク)プロジェクトの一環として国際交流基金トロント日本文化センターにてワークショップを行いました。これまでプロジェクトがインタビューによって集めてきた様々な日本語使用者の声を、いかにリソースとして多言語社会での理解やコミュニケーションに役立てていくことができるかを話し合いました。まず、日本語コミュニケーションにおける母語話者を中心とした一元的な言語使用への見方にはどのようなことが影響しているのか、私たちの身近にいる様々な日本語使用者とその言語使用について参加者と振り返ってみました。またバイリンガル教育の分野において従来の言語自体に重点を置いた考え方が、言語使用者自身の「ことば」を中心とした視点に変化してきていることをトランスランゲージングの理論を取り上げながら説明しました。後半はプロジェクトが[ウェブサイト](#)に掲載しているインタビューを見ながらディスカッションを行いました。参加者からは自身の体験と合わせて振り返る機会になった、他の人の意見や経験に対する捉え方を知ることができて良かったといった感想をいただきました。会を通して、実際にリソースを使う場を設けることが個人の問題意識に働きかけ、参加者全体で議論を共有していく活動につながると感じました。次回のワークショップはバンクーバーで8月に開催を予定しています。

本ワークショップはCAJLE 地域研修会支援および国際交流基金トロントのご助力をいただきました。ありがとうございました。

地域研修会支援金について

REGIONAL WORKSHOP/MEETING SUPPORT FUND

2014年10月に始まったCAJLE 地域研修会支援金は、カナダ全域の日本語教育活性化につながる活動を支援するための助成金です。これまでカナダ全域さまざまな地域において研修会・情報交換会が実施されてきました。会員自らが企画する地域のニーズに応じた教師研修や教師間のネットワーク作りを支援いたします。詳細は[こちら](#)をご覧ください。皆様からのお申し込みをお待ちしております。(広報担当)

In October 2014, CAJLE introduced the Regional Workshop/Meeting Support Fund, and this has allowed broad-ranged activities that assist with the growth of Japanese language education in Canada. Workshops have been held in various regions across Canada. This fund will enable members to plan and create their own instructor training, as well as networking meetings that suit regional needs. Please see the [website](#) for more information. We look forward to receiving your application. (Public Relations)

一学校紹介一

2019年8月CAJLE年次大会が開催されるBC州ビクトリアから1校、バンクーバーから1校、ご紹介いたします。— 編集部

BC州 セントマーガレットスクール

羽淵三千江

セントマーガレットスクールはバンクーバー島、ビクトリア市サーニッチ地区の閑静な住宅街に位置しています。111年の歴史を持つ生徒数350~400人ほどの女子校で現在はインターナショナルスクールとして多くの留学生も学んでいます。22エーカーの敷地内には4棟の近代的な学生寮やダイニングホールも完備されており、緑豊かな美しい学校です。幼稚園から12年生までの一環教育ですので生徒達は姉妹のような関係を作っています。

現在日本語を履修している生徒数は50人ほどで、日本語コースが始まるのは8年生のWorld Language Classからです。生徒達はフランス語、スペイン語そして日本語の中から興味のある外国語クラスを履修することが出来ます。9年生では日本語を半年間学ぶコースもあり、特にこのクラスでは日本文化を中心に学習が進められ、地域の日本文化グループとの強い絆と協力で支えられています。茶道裏千家淡交会ビクトリア協会とは5クラスの茶道コースカリキュラムを共同作成し、茶道だけでなくそれに纏わる日本または日本人の習慣や考えなど深いところまで本格的に経験し学ぶことが出来ます。

高校は3年間のコースで前半は文法学習から始まり、3年目には通訳集中練習、日本語検定試験の受験、さらに日本語スピーチ大会の参加などにも力を入れています。「暗記でなく繰り返すことで言葉を覚える」「脳だけでなく体を使って学ぶ」をモットーに、語学コースにしてはかなりアクティブなクラスだと言えます。大学でも引き続き日本語を学びたいと思っている生徒達の為に教科書は地元の大学と同様「げんき」を使用しています。

セントマーガレットスクールでは「話せない外国語学習はつまらない」と言う多くの生徒の声を反映して、できる限り楽しい語学習得と「話せる」結果を出すことができる体験的授業にも重点を置いています。時にはデスクワークから完全に離れ、生徒達に遠足で行くレストランや買い物に行く店、または美容院などの予約を日本語でさせる等の実践授業も行います。面識のない相手と電話で話すことで、予期せぬ実践的な会話に対応できる能力を養う機会を多く作るようにしています。更にテクノロジーを利用しての会話力向上にも努めています。

BC州 サレー日本語学校

岡本香織(元校長・現日本語教師・JALTA 会員)

サレー日本語学校は、1987年にカナダBC州サレー市に於いて、最初の非営利団体の日本語学校として保護者により創立され、2019年の現在に至っています。

当校は創立以来、日本語の学習を通して日本文化などの理解を深め、日加親善、並びに国際人として貢献できる人間形成を目指しています。創立当初は、幼児科クラス、継承語クラス、基礎科(外国語としての)クラスを軸にクラス編成が成され、サレー地区で唯一の日本語学校として、学習者数は平均100人以上でした。その後、時代の変遷を経て、サレー近郊の地域に新たな日本語学校もできました。1996年(私が新任の教師として入った頃)

のサレー日本語学校は、まだ高校生のクラスまでしかありませんでした。2014年から、新たに大人のクラスも開設しました。現在、前半クラス（4時45分～6時25分）は年齢の低い学習者を対象に6クラス、後半クラス（6時35分～8時15分）は、10代以上の年齢の学習者を対象に4クラスで編成され、1年（9月～6月）を通し、計60名余りの学習者が日本語学習に励んでいます。昨年2018年は、創立四十周年記念を迎え、6月の学習発表会の日に祝いました。歴代の役員と校長を招き、現在の学習者の発表を見て頂く良い機会にもなりました。

サレー日本語学校は日本の文化や年間行事を大切にしています。9月のお月見、3月の雛祭り、5月の子供の日には保護者の方が、お月見団子や桜餅、柏餅を生徒のために作ってくださり、それを皆で頂きます。新年会には書初め、正月遊び（カルタ取りなど）、茶道などをグループに分かれ体験します。文化の継承を実体験する貴重なひと時です。又、2月には毎年行われているBC州JALTAのお話発表会があります。参加したサレー日本語学校の生徒達は、皆の前で発表する経験を通して大きな自信を得ています。年間行事の運動会では、保護者の方と共に二人三脚や綱引きをし、毎年とても盛り上がります。

一年間の日本語学習の成果の集結である文集は、6年前に印刷編集からパワーポイントの文集に刷新されました。そして今年度からは授業の場所と曜日が変わり、現校長と役員の下で、サレー日本語学校は新たな出発をしました。これからも学習者を中心に保護者と教師が協力し合い、更に伸び行く学校であることを確信しています。

国際交流基金コーナー

村上吉文 国際交流基金派遣 日本語上級専門家

今回は当センターが主催する日本語教師向けのオンライン活動を5種類ご紹介します。

1. PD オンデマンド

リクエストに基づいて Zoom を通して研修を行います。お申し込みはお一人様からでも結構です。ご希望の方はまずは村上までご連絡ください。日時はお申し込みの後にご相談させていただきます。ご利用可能な研修のリストは[こちら](#)にございます。

2. Ask Yoshi!

東部時間の正午と午後3時からの60分、アポなしで村上とオンライン面談することができます。出張や会議などで予告なくお休みになることもあります。オフィスにいるときは必ず [Zoom](#) を開いています。今後、会議室IDが変更される場合は改めてニュースレターと公式サイトでお知らせ致します。

3. オンライン EdCamp

EdCamp は教育関係者が集まる互助的な相談会や勉強会です。トピックは参加者が決めます。国際交流基金トロント日本文化センターが行うオンライン EdCamp に関しては、Twitter の [#EdCampJFT](#) というタグで予定や感想などが共有されています。

4. オンライン講演会

カナダで活躍する日本語教師の方をゲスト講師としてお招きして話を伺います。村上からインタビューする場合と、プレゼンをしていただく場合があります。その後小グループに分かれてディスカッションし、最後に全体で質疑応答というパターンが多いです。詳しくはトロント日本文化センターの[公式サイト](#)をご覧ください。講師として呼んでほしい方のリクエストがありましたら是非お知らせください。録画されているものは[こちら](#)でご覧になることができます。



5. オンライン日本語教師研修

カナダの日本語教育の多様化を目指して、ご自分の強みを活かした日本語のコースのシラバスを開発する「行動中心アプローチに基づくオンライン日本語教師研修」と、そこで開発されたシラバスを元にオンラインで学習者とつながるための「日本語教師のための初めてのウェブサイト作成」を実施しております。オンラインで一对一の面談も行います。詳しくはトロント日本文化センターの[公式サイト](#)をご覧ください。

— CAJLE よりお知らせ —

CAJLE2018 年度下半期活動報告（2018年12月～2019年5月）

書記 白川理恵、安達いづみ

理事会担当報告及び承認事項

2018年 12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報部よりニュースレター57号発行 ・ ウェブにCAJLE2019大会案内を掲載 ・ 会員ログインサイトに2018年の年次大会資料、年次総会議事録を掲載 ・ 2019年夏に発行予定のジャーナルCAJLE20号 投稿締め切り
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第7回オンライン理事会開催
2019年 2月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年CAJLE年次大会の研究発表募集を開始 ・ 大学院生を対象としたAbstract Awardについても告知
2月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第8回オンライン理事会開催
3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルネットワーク企画「日本語話者はどのような経験をし、何を語るか—日本語話者の多様性理解のためのリソース開発の試み—」を理事の米本氏が発表(日本語外国語教育機構第6回シンポジウム) ・ 地域活動支援企画 継続BC第4回「漢字の指導・漢字の将来」於バンクーバー日本語学校
3月19日、	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続第28回日本語クラス見学 於 国際交流基金トロント

27日	共催：国際交流基金トロント、CAJLE
3月24日	・「第30回全カナダ日本語弁論大会」開催 於 在カナダ日本大使館 共催：在カナダ日本大使館、CAJLE、全国大会組織委員会
4月7日	・地域活動支援企画・グローバルネットワークプロジェクト「セカイの日本語～みんなの声～日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソースを使ってみよう」ワークショップにて、理事の林氏が発表。於オタワ、カールトン大学 共催：カールトン大学、CAJLE
4月8日	・2019年CAJLE年次大会研究発表募集の締め切り
4月10日	・第9回オンライン理事会開催
4月27日	・継続第29回ビデオによる授業見学 於 国際交流基金トロント 共催：国際交流基金トロント、CAJLE
5月2-4日	・Languages Without Bordersにて、理事の善積氏が“Promoting Cross-Cultural Understanding in a Language Classroom: Using Japanese as an Example”ミニワークショップを開催 於ニューブランズウィック州フレデリクトン 主催：第二言語教師会(CASLT)
5月12日	・地域活動支援企画・グローバルネットワークプロジェクト「セカイの日本語～みんなの声～日本語使用者の言語と経験の多様性に対する理解促進のためのリソースを使ってみよう」ワークショップにて、プロジェクトメンバー、川口氏が発表。於 国際交流基金トロント 共催：グローバルネットワークプロジェクト、CAJLE

編集後記

◆ 特集記事として「カナダ日本語ビデオコンテスト」を取り上げた。公式チャンネルでビデオを見ていると、学習者の発想に驚かされる。ビデオ制作を通して日本語で表現し発信、それが視聴者に伝わるという実感は、学習者の自信とやる気に繋がることだろう。「表現リテラシー」がテーマである年次大会にて更なる表現発信について学びたい。(紅@倫敦) ◆ 今年の冬は氷河期が来たのかと思うくらい厳しい寒さで、永遠に春が来ないのではないかとさえ思いました。6月のニュースレター発行とともに、今年もまた素晴らしい季節を迎えることができ、とても嬉しく思っています。美しいビクトリアの街で、皆様とお会いできることを楽しみにしております。(123@薩斯卡通) ◆ 先日母の日にビクトリアに娘と日帰り旅行をした。今も英国の影響が色濃く残っている美しい街で8月に開催される年次大会では、多様性をモットーとしているカナダならではの雰囲気に参加者に感じていただければと思いフェリーに揺られていた。(猫婦人@北晚香波)

CAJLE ニュースレター編集部ではコメントや日本語教育に関するご意見など皆様からの投稿を歓迎します。お気軽に編集部 CAJLE.PR@gmail.com までメールをお寄せ下さい。

CAJLE newsletter editorial board welcomes comments and opinions that address issues related to Japanese language education. Please email us at CAJLE.PR@gmail.com

カナダ日本語教育振興会
Canadian Association for Japanese Language Education
P. O. Box 75133
20 Bloor St. East Toronto, Ontario M4W 3T3 Canada
Web: <http://www.cajle.info/>

会員規定 - Membership

カナダ日本語教育振興会は、カナダにおける日本語教育の発展と向上を目指す非営利組織です。日本語教育に関心のある方ならどなたでも会員として登録することができます。

会員特典

- ・カナダの日本語教育情報満載のニュースレター(年2回発行)
- ・日本語教育関係の各種ご案内
- ・年次大会、勉強会、その他の催しの参加費割引
- ・CAJLE 年次大会での研究発表資格
- ・The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) 会員登録の割引適用:年会費 \$15 (通常\$45)

会費年度

毎年1月1日から12月31日まで。

会員の種類

一般会員(1年)	\$ 45 CAD
一般会員(3年)	\$ 120 CAD
学生会員(1年)	\$ 30 CAD
組織会員(1年、4名まで*)	\$ 120 CAD

*全員が同じ組織に所属していること。4名を超える場合、以降1名追加ごとに\$30お支払いいただきます。

CAJLEホームページのメンバーシップページ(About us)より、オンラインにてお申し込みいただけます。

小切手もしくは銀行振込によるお支払いをご希望される方は、会員申込書をご記入の上、メールまたは郵送でお送りください。

申込書、お支払い方法についてはホームページをご覧ください。<http://www.jp.cajle.info/>

申込先:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

※連絡先の変更

住所およびメールアドレス等の変更があった場合にはこちらまでお知らせください。cajle.kaikei@gmail.com

CAJLE is a non-profit organization which actively promotes Japanese language education in Canada. We welcome everyone who is interested in Japanese language education.

CAJLE membership entitles you to:

CAJLE membership entitles you to:

- Receive the CAJLE Newsletter full of information about Japanese Language Education in Canada (two issues annually)
- Receive various announcements related to Japanese education via email.
- Attend the CAJLE annual conference, workshops and other related events at a reduced rate.
- Present research at the CAJLE annual conference
- Special rate for The Canadian Association of Second Language Teachers (CASLT) membership. (Affiliate Individual Membership is \$15, instead of Regular Individual Membership \$45)

Term of Membership:

The term of membership runs from January 1 of each year through December 31.

Membership Categories:

Regular Membership (1 year)	\$ 45 CAD
Regular Membership (3 years)	\$ 120 CAD
Student Membership (1 year)	\$ 30 CAD
Institutional Membership (1 year, Up to 4 members*)	\$ 120 CAD

*All members must belong to the same institution. If there are more than four members desiring membership, each can be added by paying \$30 for each additional person.

Please visit our website and open "Membership" page through "About us". Please fill out the online form and complete the payment procedure through paypal. For those who wish to pay by personal check or bank transfer, please fill out the application form (available on www.cajle.info) and mail or email it with the appropriate membership fee.

Mail to:

Canadian Association for Japanese Language Education (CAJLE)
P.O. Box 75133, 20 Bloor St. East
Toronto, Ontario, M4W 3T3, CANADA

Please notify us at the following email address if your contact information changes: cajle.kaikei@gmail.com